

## 匝瑳市健康づくり推進協議会会議録

平成24年3月22日（木）

13時30分から14時15分

匝瑳市保健センター集団指導室

【出席委員】 9人（内、代理出席1人）

橋場 永尚、江波戸 寛、小窪 和博（代理 菅谷 茂久）、石田 加代、熱田 孝雄、押尾 悦子、那須 章典、片岡 工、梅原 一郎

【欠席委員】 5人 川野 多恵子、菊池 紀夫、池田 竹四、林 義雄、磯部 範夫

【オブザーバー】 藤原 友紀子

【事務局】

椿課長、椿班統括、小川主任管理栄養士、大木主任保健師、齋木保健師

1 開会 事務局

2 あいさつ 会長

4 議事 会長が議長となる。

（1）「平成23年度保健事業の実施状況について」

（2）「平成24年度保健事業計画について」

（3）その他

議長 会議の成立を宣言

（1）「平成23年度保健事業の実施状況について」を事務局説明

【質疑・意見】

〈委員〉

予防接種の三種混合、ポリオの接種率が低いがどのような理由があるか。

〈事務局〉

対象者の把握の問題で、三種混合ワクチンは、昨年度は対象者が 1,389 人で今年度は 1,694 人で記載しているが、今年度については、当該年度の対象者だけではなく 7 歳 6 か月までの未受診者を含めたものを記載した。接種者としては、昨年度末で 1,080 人で本年度 2 月末で 949 人であるので今年度もほぼ同じくらいの数値となっている。昨年度は最終的に、接種率 77.8 パーセントであったが、今年度もほぼ同じ水準と見込んでいる。

ポリオについては、マスコミ報道されているように生ワクチンの問題による影響と考えている。神奈川で独自に不活化ワクチンの接種を始めたことが報道されている。国では、平成 24 年 12 月末を目途に不活化ワクチンの接種を開始できるよう準備を行っているところである。

〈会長〉

ヒブと小児用肺炎球菌の対象者の違いは何か。

〈事務局〉

それぞれのワクチンの接種回数の違いによることと、任意接種であるので既に接種している人もいるので違いが出ている。

〈委員〉

平成 23 年度のがん検診の受診率が低い。乳がん検診が 33.8 パーセントで増えてきているが、受診してもらうことが大切であるので、受診者を増やすための計画は何かあるか。

〈事務局〉

がん検診の取組みとしては、検診を受けやすい体制づくりとして、集団健診と個別健診を実施し受診者が選択できるようすることや検診日に土曜日・日曜日を入れるなど受診しやすい日程作りを行うこと、子宮がん・乳がん・大腸がん検診については無料クーポン事業を実施すること、また、周知の方法としては、がん検診対象年齢である 40 歳や 20 歳になった方へ個別通知を行うことなどを行っていく。この外、数種類のがん検診の受診が 1 日で済むような検診の組合せや若い世代の受診率向上の取組みについて考えていきたい。

〈会長〉

がん検診は、病院で受診している人もいる。これらはカウントされていない。  
検診については、PRも大切なのでこの点も含めてお願いしたい。

〈会長〉

議題（１）の「平成２３年度保健事業の実施状況について」は、このとおり承認することとしてよろしいか。

〈会長〉

議題（１）は、このとおり承認することとする。

（２）「平成２４年度保健事業計画について」を事務局説明

**【質疑・意見】**

なし。

〈会長〉

（２）「平成２４年度保健事業計画について」はこのとおり承認してよろしいか。

〈会長〉

議題（２）はこのとおり承認することとする。

〈会長〉

（３）その他について何かあるか。

〈事務局〉

平成２４年度新たに保健事業計画に載せた「がん対策推進計画策定事業」であるが、計画の審議、評価等を健康づくり推進協議会において行うこととしたい。計画案の策定は、部会等を設けて行い、それについて審議していただく形を考えている。条例を策定している団体は、わかっている範囲では、全国で２市１町、都道府県でも１０団体である。よろしくお願いしたい。

〈会長〉

この地域のがんの死亡率は、県内でも高い。この点についてはどうか。

〈委員〉

確かにがん死亡率が高い。保健所としても各市と協力してがん対策を推進していきたい。

〈委員〉

歯科医師会でも以前、口腔がんの公開講座を開催した。他のがんに比べれば発症率は低いですが、がん全体に対する意識を高めるため口腔がんも取り入れてはどうか。

〈会長〉

以前、貴乃花の口腔がんが取り上げられていたが、エポックメイキングなことがないと忘れられてしまう。検診でできればよい。

〈会長〉

ほかに意見はあるか。

〈会長〉

先日、海匠地区の職域の会議があったが、この地域は、心疾患や脳卒中の死亡率が高い。平均寿命は県内でもワースト 1,2,3 に入るような状況である。減塩が一番なので減塩を進めている。

東総地区の医師会の会議でも、塩分の摂取量について銚子医師会から出されていた。銚子では、学校健診で尿中塩分検査を取り入れていきたいという話であった。よかっぺ祭りでのテーマとしてもよいかと考えている。

議長 閉会宣言